

国葬反対集会・9月24日
草津駅前



6月に開かれた同盟第40回全国大会は「一日も早い2万人同盟の建設」を呼びかけました。滋賀の同盟はみなさんの努力によって年々会員を増やしてきました。これは私たちの誇りです。しかしながら他方から見ると、会員拡大が遅々としているのが現状で、近畿6府県で最も小さい組織のままでいます。

顧みれば2018年の県本部総会で「次期総会を350人会員で迎えよう」と決めて4年がたちます。毎年、同じことを決めてきたのですが、実現していません。なぜか。掛け声だけに終わっていた

からです。9月の県本部幹事会はこの事態を反省し、県本部3役、幹事が年内に「1人」以上の会員を増やすことを決意しました。これが実践されれば、350人会員に大きく近づきます。

幹事会はまだ、支部の幹部に「1人」の会員を増やすよう、呼びかけました。県本部と支部の幹部ががんばれば、350人会員は実現可能です。幹部が先頭に立って、滋賀の同盟を大きく強くしようではありませんか。もともと会員みんなが「会員拡大」に取り組むことが大切です。9月の幹事会では支部ごとの会員拡大目標を確認しました。ここで強調し

ているのは、幹部が実践の先頭に立つことです。

同盟第40回大会が指摘したように、特定秘密保護法、共謀罪、戦争法など「治安維持法体制は、名前を変え、装いを変えて、たえず復活しようとして」います。この策動を打ち砕き、民主主義、憲法9条を守るために、同盟建設が重要になっています。「伊藤千代子」映画上映運動の成功は、会員拡大の可能性を示しています。

10月という月には特別の意味があります。(1945年)10月10日、治安維持法違反などで投獄されていた政治犯が釈放されました。10月15日には治安維持法が廃止されました。この10月、会員拡大に大きく踏み出し、年内350人会員を実現しようではありませんか。

その成功のうえに立つて、2023年1月21日の「県同盟創立35周年行事」を開こうではありませんか。



滋賀県版No.345

2022・10・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034

東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・

全労連会館

発行

滋賀県本部

〒520-0803

大津市竜が丘11-22-316

☎077-521-0884

柚口 延

10月1日現在

会員 318人
(目標350人)

個人署名
501筆

(目標5,000筆)

団体署名17筆
(目標150筆)

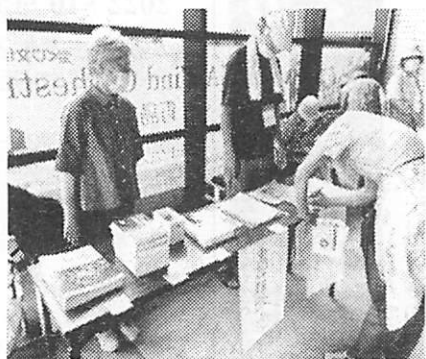
映画「わが青春つきるとも

伊藤千代子の生涯」を観て

木村 晨二（草津市・滋賀県平和委員会事務局長）

「民衆の旗 赤旗は 戦士のかばねをつつむ」、昼時間の職場集会や夜の集会（京都山公園や二条城メーデーなど）でいつも聞かされ、口ずさんだ歌が、刑務所にこだました時には、千代子ら先人たちの未来社会に寄せる想いや同時代に結ばれた団結力を見ることができ、うれしく懐かしかった。

天皇制政府・特高警察が人民の弾圧と分断を繰り返した中で、私たちが就職した戦後の職場でも「あいつと話したらアカン」「あいつは共産党だ」などといった「労働者分断」の残滓が残っていたが、その時にもこの「赤旗」や「がんばろう」などをみんなで合唱し、労働者の団結を呼びかけていたことを思い起こさせてくれた。



草津アマカホール・9月24日

映画はこうした弾圧社会を強調したかったのかもしれないが、欲を言えば、社会変革に目覚めた若者たちの生き生きとした姿をもう少し描いてほしかった。

「特高の 手にたふれしや

千代子らの 夢とこころを

明日に繋がん

獄中の心震える「O Tannenbaum」 赤旗の歌

「わが青春つきるとも 伊藤千代子の生涯」を観て

大津市 芝川 淳

2022年9月4日、草津アマカホールにて鑑賞してきました。

女性が学問をすることを良しとしなかった時代にあつて、向学心に燃え、学びたいと努力する姿をとて眩しく感じました。

小学校代用教員に感じた貧困と格差。お弁当を持って来られない子どもは、今の時代との大きな共通点があり、決して昔の出来事ではない、今につながる事だと思ふのでした。

女子大で勉学に研究活動に社会活動に打ち込む女子大生たち。片や製糸工場で過酷な労働条件で強制労働を強いられる少女たち。ここにも大きな格差を感じずにはいられませんでした。

そんな中で大きな力に抗おうと頑張った仲間たちの絆の深さ。希望をもって自分のやりたいことを貫き戦うことを選んでいったのは千

代子をはじめとする女性たちでした。

その思いが強かっただけに、男たちに裏切られた（転向）思いは、いかばかりだったでしょうか？精神に異常をきたしてもおかしくないでしょう。誤解を招く言葉かもしれないが、「エラソーなこと言うても、やっぱり男はあかんわ」というのが正直な気持ちです。

さて劇中で何やら聞き覚えのあるフレーズが何回か出てきて、それが獄中で歌われた「赤旗の歌」だったことに気が付きました。自分が歌う人間なせいか、こういう場面での人の声、歌声には、理屈を通り越して本当に心が震えました。

うちに帰って調べてみると元の歌はドイツ民謡の「O Tannenbaum」（もみの木）でした。なんとも懐かしい気持ちになれたメロディーは、

少女時代に合唱で歌った曲と同じだったのかと驚きました。

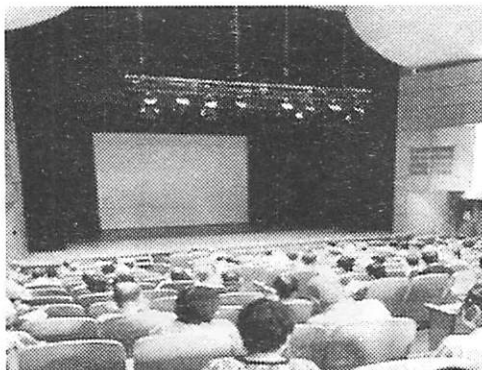
実は伊藤千代子と私の祖母は、ほぼ同い年で、時代の流れを見ると、祖母の生きた時代と同じであると思うと決して大昔の人でなく、身近な人を感じました。それでも千代子が亡くなってから90年以上経ちますが、日本が抱えている問題は決して解決していません。女性たちのしんどさも、働く者のしんどさも、子どもたちのしんどさも、むしろ悪くなっていると感じます。

大きな戦争を経て、時代は大きく変わったといわれますが、自由なことを自由に表現できて良い時代になった……とは思いきれず、わたしたちは子どものころから「人に逆らわない」「人間に育てられた、というか」「民衆はちよつとアホなくらいが丁度いい」と育てられたと思えてなりません。無知であるということは大きな罪であることだと言います。巨悪に潰されないよう、賢くありたい

と強く感じました。

映画が終わって、見ている間中、奥歯を噛みしめていた事に気が付きました。千代子の無念さがひしひしと胸に迫り、その無念さに胸が押しつぶされそうになりました。

わたしたち女性の人權、参政権を始め、数々の権利は彼女が存在なしには語れません。私にとつて「伊藤千代子」は忘れ難い人となりました。



草津アミカホール・9月24日

「伊藤千代子」 上映運動に携わって

彦根愛犬支部 吉原 英樹

(国民救援会 彦根・犬上支部事務局長)

救援会の活動を共にする鈴木勉一さんから映画「伊藤千代子」の話があつた時、昔「ドレイ工場」や「沖縄」などの上映運動に頑張った思い出がよみがえりました。さらに参院選を前にして野党共闘の論議が停滞する状況で、これでは憲法が危うい……との不安を禁じえず、この映画が格好の学習の場であり決起の機会となるのではとの思いでその協力を自ら申し出ました。

国賠同盟の共催で学習会も開き、ニュースも発行しました。

元永弁護士を代表とする実行委員会の奮闘で賛同者は100人を大きく超えました。

観覧者が300人を大きく超え、多額の上映協力金も寄せられ運動は実を結びました。

まず立派な会場を確保し、複数の上映機会、専門の映写技師派遣、大量の宣伝ビラ等を大胆に進めました。当地では「原発をなくすために」「野党共闘推進」さらに西山美香・故阪原弘さんの冤罪を勝ち取るために等、幅広く市民が結集し地道に運動を進めていく

さて救援会では、「日野町事件」の再審を大津地裁に続いて大

阪高裁でも決定させたいと願っていますが、3月の結審した後いまだ出されていません。請求人の長男・阪原弘次さんは彦根在住で現役のバス運転手で超多忙です。大変思慮深く、謙虚な方ですので地元彦根市内での街頭宣伝・署名は配慮しています。しかしこの緊急事態に去る9月11日ひこねキャッスルロードで行動しました。弁護士2人、西山美香さん、議員さんを含め10人以上がマイクを握り、阪原さんを励まし、早期の高裁決定を促しました。署名板を抱えて周辺に散らばり署名を依頼しました。そこには「原発ウラークの会」、民商、新婦人、「演劇鑑賞会」など上映運動で結ぶついた仲間姿がありました。1時間程度の行動でしたが40筆が集まり、後日14日に高裁に直接届けました。

阪原さんは一緒に行動出来ませんでしたが「その日会社で、20人近い人から“署名やつてはったね！頑張りや”と励まされた」と感謝の言葉がありました。

19氏を顕彰 第10回 滋賀いしずえの碑 合葬のつどい



崇徳寺・彦根市

社会進歩を願い、政治革新などの運動に力を尽くした人たちのを偲んで、9月23日、彦根市の崇徳寺で第10回合葬追悼会が開かれました。今年は19人の銘板が境内のいしずえの碑に納められました。参加者は、平和と民主主義を守り発展させる途上で亡くなられた人たちの前で政治革新の決意を新たにしました。

卒寿の思い 『少年時代は、戦争だった』②

紀元二千六百年

甲賀市 吉村 克之

1940（昭和15）年、私が小学校2年生になった年です。国内は「紀元二千六百年」の祝賀行事に溢れていました。ポスターの「千」の字が分からず、母に「千って何や」と聞いて笑われた記憶があります。国語の授業で「百」は教えられても「千」は未習だったのです。これは当時の金銭感覚を反映しています。

それはともかくとして、この「二千六百年」とは、神武天皇が



いしずえの碑

即位して以来2600年になるということです。「神武」自体、「事記」に記載された当時でも伝説あるいは捏造された人物であり、神武即位の日とされる2月11日が紀元節（現建国記念日）とされているのも全く根拠がありません。

この華やかなイベントの影で、前回述べたように、翌年の「大東亜戦争」開戦に向けた「国民精神総動員」の体制が作られていたのです。

この「神武紀元」は「皇紀」と呼ばれ、軍隊では「ゼロ戦」（紀元2600年式の意味）など兵器の年式などに用いられていましたが、国民の生活にも使用するようには勧められません。「西暦」の使用は禁止状態でしたが、「昭和」「皇紀」、そして必要な場合は「西暦」と三暦の年号表記にも悩まされることになりました。

治安維持法と滋賀県⑥

県本部副会長 西田 清

（一）まで『滋賀日日通信』の記事に添いつつ、桑田律、張載達、野崎弥八の諸先輩の闘いを追ってきた。

これからも全国各地で闘った滋賀県出身・本籍滋賀県の1000人の先達を可能な範囲で紹介していきたい。が、その前に今回、戦前滋賀の「共産主義運動」の状況を紹介する。出典は『社会問題資料叢書 第一集 昭和7年 自1月至6月 社会運動情勢—大阪控訴院管内—（下）大津地方裁判所管内（思想研究資料第28集）』（1979年復刻版）。もとより体制側の文書であり、偏見もあるが、参考になる。なおカタカナ表記はかな表記に改めた。

文書の「第一 概説」は、必要部分だけの紹介のとどめ、「第二 共産主義運動」は全文紹介し、「第三 国家主義乃至国家社会主義運動」は省略する。

第一 概説

管内は古来近江商人の発祥地として知られ、叙上のごとき生産状態（概説の前半部分。省略）にして勤儉の風風に富み、思想概ね穏健なるも思想運動熾烈なる京阪神各地に近接し交通連絡至便にして、所謂世界戦争以来澎湃たる思想の潮流に超然たること能わず漸次其影響を受けるに至れり。

管内現在思想特別要視察人五名（共産主義三、社会主義二）、思想要注意人二十名（共産主義十三、社会主義七）労働要視察人二名（共産主義一、社会主義一）を算し、就中思想特別要視察人高谷寛蔵は大津市の相当富裕なる家庭に生まれ、大正十一年大阪高等工業学校卒業後、渡米して在米邦人の組織せる共産主義結社に加入し、在紐育邦人共産主義中心人物石垣栄太郎の紹介に依り片山潜に招致せされ、大正十二年十月独逸伯

林を経て入露し、東方共産党大学に入學したるも其後香として音信なく、目下莫斯科に於て活動するものの如く伝えられる。同原田耕も亦大津市の産にして大正十二年大阪外国語学校に入學し、仏語科三年在学中大正十五年二月京都帝国大学々生を中心とする左傾学生と共に治安維持法違反に依り検挙せられ、其後又反帝同盟運動を為し昭和五年二月二十六日、警視庁に於て検挙せられ兩名共管内に現在せざるも管内極左重要人物に要指せらる。又澤勘四郎は歴労働争議を扇動し、全協系労働組合非合法組織を為す等特に注意を要する者なり。

既往に於ける管内の思想界を概観するに、主義者の言行並各種の思想運動は概ね平穩にして其過激なるもの殆ど稀なり、今や経済界の不況益深刻を加え百般の事業愈不振に陥り延て思想運動の如きも近時著しく鎮静の觀を呈せり、此時声無きは声有るに勝るものあらざるやを虞る、此不況にして尚久しきに涉り窮通其宣しきを制し得ずんば人心の変測るべからずものあらむ豈警戒を要せざらむや、以下項目を分ち概況を叙すること如左。

第二 共産主義運動

一 日本共産党の情况

二 日本共産青年同盟の情况

既往

右一、及二、に付ては管内に該当結社団体等なく、又黨員団員の現住する者なきも従来管内在籍者又は居住者にして共産主義を奉ずる者常に十数名あり。

（一）嘗て管内彦根町に在住せし同主義者吉田源蔵は、大正十五年十一月二中回到互り豫て同主義に共鳴せる西山文三、太田増美、馬場富三郎、吉はつ（吉田源蔵妹）と自宅に会合して、現在の社会制度及経済組織を呪詛し、斯る不合理なる制度組織を打破するには労働者一致団結革命の手段に依り社会の実権を掌握せざるべからず、之を實現し得ば今日の不合理なる国家は自然消滅し、国体は一変するに至る旨力説謀議し、同年末を期し名を忘年会に借りて同志を糾合し、将来共産主義的社会實現の目的をもつて結社を組織せむことを計画し、又當時同町に於て発行の湖東日々新聞紙上に「吾等の信

ずるマルキシズム」と題する論文を寄稿掲載したるに該記事は安寧秩序を害するものと認め、内務大臣より即日発売頒布禁止となり、同月十六日治安維持法違反として検挙せられ、同月二十六日大津地方裁判所検事局に於て起訴猶予処分に付したり。

而して吉田源蔵は右検挙に際し官憲の執りたる行動は不法の処置ありとし、昭和二年二月二十日夜、彦根町金亀会館に於て進めた大阪本部及関西労働同盟会より辯士として山本辰興外六名応援の下に「彦根共産党事件官憲行動批判」と称し、工場労働者等約七百名の聴衆ありたるも、各弁士の演述拙劣にして論旨徹底せず聴衆より反問笑殺せられ、臨監間警察官の注意中止に依り氣勢昂らず約三時間にして散会せり。吉田源蔵は其後昭和三年一月十日大阪に転住せり。

(一) 昭和四年七月日本赤十字社滋賀支部病院医員として、大津市

に來住したる宮崎県人飯田三美は京都帝国大学医学部卒業の医学士にして同大学在学中、社会科学研究会幹事たりし關係上、第三次日本共産党組織運動に關し、同志田代某(京大経済科出身)及前川善蔵(当時京大学生滋賀県高宮町出身)等より出資を求められ、該運動資金なることを知り乍ら昭和四年八月、十月、翌昭和五年一月、二月の数回に亘り、大阪天神橋畔に於て街頭連絡の下に合計金百五十円を手交したること發覺し、大阪特高課の検挙する所となり、昭和五年三月住居地大津市に於て逮捕せらる。爾來管内に於て共産主義運動を為したるものなし。

昭和七年自一月 至六月
本期間中同運動なく特記すべき事項なし。

三 日本共産党及日本共産青年同盟の外邦運動

イ日本労働組合全国協議会

既往

(二) 昭和二年八月二十八日全協分

子なる、日本労働組合評議会京都合同労働組合オルグ氏家正人、滋賀県能登川在なる日本カタン糸株式会社(その湖東紡績と改称)職工伊藤誠一、奥田製油所職工崔智弘等に依り

日本労働組合評議会京都合同労働組合能登川支部を結成し即日前記両会社に対し労働時間の短縮、賃金の値上、待遇改善などを要求し、両会社職工約百名の共鳴者を得て同盟罷業敢行の結果、職工に有利に解決したることあるも其後活動の機会なく善治衰退し、昭和五年六月全く解消するに至れり。

(二) 昭和五年三月頃、日本労働組合全国協議会京都京都地方評議会分子西代義治は柳且乙をレポータとし澤勘四郎、高野茂樹を勧誘し、膳所、石山両町所在東洋レーヨン及旭絹織の人絹職工を基礎とする労働組合組織を企図し、宣伝に依り職工を煽動して争議に導かんとし種々計画する所ありしも警戒嚴重の為進展せずして止まり。

第31回全国女性交流集会の 二案内

◆ 11月6日(日) ～ 7日(月)

◆ 静岡県熱海市

◆ ニューウェルシティ湯河原

◆ 分担金1人25000円

但し20000円は本部支部から補助の予定

◆ 交通費・宿泊費は中央負担

◆ 全体会の記念講演

講師 田村智子参議院議員

「女性の権利・ジェンダー平等時代を拓く不屈の闘い」

◆ 分科会(7日)

① 治安維持法はなぜ悪法か

② STOP改憲

③ 伊藤千代子上映運動

④ 女性部の役割

⑤ 新入会員向け交流会

◆ 申し込み締め切り

10月20日までに古谷さんまで申し込みをしてください。

滋賀と朝鮮 79

彦根市城東小学校③

河かおる

前回の記事を読んで、1961年

から城東小学校に在職されていた
是金昭三さんよりお手紙をいただき
ました。大変ありがとうございま
す。同封くださった1964年の学
校要覧のコピーには「課外講師」と
して「沈載熊」の名があり、校舎平
面図に「朝鮮学級」の場所を示して
くださいました。朝鮮学級の場所
は、これまで推測していた場所とは
違う場所ではっきりわかって嬉し
いです。

沈載熊先生は、前回の記事に掲載
した「平和の誓」像除幕式の写真の
後列左に立っている先生で、195
8〜1965年の8年間、城東小で
教えておられました。城東小に来る
前は、次回に紹介する米原小で3年
間教えておられました。滋賀朝鮮学
校の鄭想根先生の調査によると、も
ともと千葉県の出身で、2006

年に他界されたそうです。

是金昭三さんは城東小学校12
0周年記念誌『輝きて』のコピー
も同封してくださいました。実は
私はちょうどこの120周年記念
誌の編集作業も大詰めを迎えてい
た2006年8月に、何日間か城
東小学校に通って、保護者の方々
が編集作業をなさっている横で、
古い卒業アルバムや学校新聞を閲
覧していました。その中で「平和
の誓」像や民族学級についてお話
しし、その意義をお伝えしたところ、
年表のところに囲み記事が写真
入りで載りました。もともと年
表には記述があったのですが、その
時点で修正可能な範囲で大きな
扱いにしてくださいましたと記憶して
います。さらにその時知り合った
方のお子さんの夏休みの自由研究
でも取り組んでくださったようで

す。嬉しい思い出です。

さて、その際に『城東新聞』第32
号（1961年9月26日）一面全体
で像と除幕式について書かれている
のを見つけました。トシブの見出し
は「平和記念像完成 日鮮友好の架
け橋―『平和の誓』除幕さる」で
す。戦後16年目にしても「日鮮」の
用語が使われているのが大変残念で
すが、本文の村瀬校長の言葉では
「日朝」となっています。村瀬校長
によると、像の寄贈の話は同年3月
頃にあつて、「母国へ帰るに当つ
て、わが子の教育を受けた彦根の地
に感謝の念を表す」ためという趣旨
に胸を打たれて、滋賀大学学芸学部
の伊室重孝教授に制作を依頼する架
け橋にもなったそうです。伊室教授
は滋賀県庁正面玄関前噴水の裸婦像
「母なる湖」の作者としても知られ
ています。除幕式には彦根市長も参
列しました。

沈先生の「平和の誓によせる」と
いう記事では、城東小に朝鮮学級設
置以後、百十数名がお世話になり卒
業したこと、帰国児童数は既に24名
であること、記念像は感謝の意味も

含めて帰国希望者がお金を持ち寄
り制作したことが述べられています。

日本人児童と朝鮮人児童の言葉
も載っています。像の作者である
伊室教授は次のように像の意義を
述べています。「……つまり平和で
生活が出来なければ、みんなが幸
せに暮らすことは出来ません。世界
中の人々が仲よくすることが、先
ず私達の一ばん大きな願いでなけ
ればなりません。こんど建てられ
る記念像はそう言う意味で、日本
と朝鮮が第一に先ず仲よくして行
きましょう、と言う意義をもつも
のですが、その意義が永久に忘れ
られないようにするためには、前
に言いました様に、その像が空間
を引きしめる役目を十分果たしてい
なければなりません」

是金さんは1964年の卒業ア
ルバムがあるはずですが見つけれ
なかったと書いてくださったので
ありますが、実は私は城東小に残っ
ている全ての卒業アルバムを拝見
しました。1964年度の卒業ア
ルバムでは、6年生の担任の先生

方の記念写真は像の前で撮影されていた。移動した場所は通用門で、当初は子どもたちの目にも触れていなかったですが、そのうち別の通用門ができるとそこは閉め切つて物置のようになり、子どもの目に触れなくなつてしまったとのことでした。

ところが、1986年度の卒業アルバムでは、像があつたはずの場所の写真には像が見当たらず、記念写真にも登場しなくなつてしまっています。おそらくその間に、像のあつた場所を駐車場として整備するために、撤去して校舎の中に移動させたようです。その頃に在職されていた方から聞いたところでは、像を中に入れた翌日に、「あの像どこにやったんや」と言つて来た人がいたそうです。その人が日本人なのか、在日朝鮮人なのかはわかりませんが、きっと在日朝鮮人ではないかと推測していただきました。伊室教授の作品が稀少なので、いずれ別の然るべき場所に収蔵するための仮置きのようなつもりだったと記憶しておられます。

私が最初に像のことを知つたのは、像が校舎の中に入れられてから約20年後の2005年8月の第26回全国在日外国人教育研究会・滋賀大会の分科会においてでした。というより、この大会の準備過程でこの像は「発見」されたのです。この像のことを在日朝鮮人から聞いた大会実行委員が城東小学校に問い合わせても、わからないというので現地に行つてみたそうです。すると、用具置き場状態になつていた元通用門の一番奥の壁側に、ガラス戸の付いた戸棚に入っている像が見つかりました。戸棚の前には別の大きな戸棚があつて、そこによじ登つて上から見て、ホコリだらけのガラス戸を指でこすつたら見えたそうです。当時、城東小の職員の誰もそ

こに像があるとは知らなかったそうです。

除幕式の際、村瀬校長は「子供たち、下手な平和のお説教をするよりもあの像の前に立たせるその事で、人間愛、平和尊重の精神を涵養することができ」と述べていましたが、校舎の中に入れられてから約20年の間に、その役割を果たせないうまま忘却されていたのです。故意ではなかったにせよ、とても悲しいこととです。幸い、大会の前に物置は整理され、見学が可能な状態になり、私もその時に初めて見ることになりました。しかし薄暗い物置であることにはかわりなく、とても芸術作品として伊室教授のいう「空間を引きしめる役目」を果たせる状態ではありませんでした。

その後、何年かして、像は戸棚に入つたままですが、正面玄関を入つてすぐのところに移動され、現在は子どもたちや来校者の目によく触れる場所に置かれています。簡単ですが説明も貼つてあります。教職員研修に私を呼んでいただいて、像のことをお話したこともあります。

2007年に滋賀県が発行した人権啓発冊子「ここから滋賀の人権ゆかりの地をたずねて」(注1)にも掲載されました。皆さんも、機会があつたら是非見学してください。次回からは米原小について書きます。

注1

(<https://www.pref.shiga.lg.jp/ppan/kurashi/zinken/11915.html>)

